藤井寺市藤野邸調査復元について

―復元報告―

福 原 成 雄

はじめに

藤野家住宅は、西国三十三所観音霊場の五番札所である葛井寺の南門から東に50m 程の所に位置する。

周辺は門前町「藤井寺村」が形成され、今も多くの巡礼者が訪れている。

藤野家は、室町時代からの家系図も残される家柄で、江戸時代には、藤井寺村の庄屋を代々勤め、明治時代には、村長も勤め、敷地内には村役場も作られる有力者であった。

藤野家住宅は、葛井寺の南門前を通る東西道路に面して表門を設けている。表門を入ると前庭があり、敷地中程に主屋が北面して建てられている。主屋の東には附属屋が付き、附属屋の北には長屋門、南には蔵、物置が道路に面して南北に並んでいる。

敷地南側は、畑に面して、物置、鳥小屋、農機具入れが配置されている。屋敷地の北側および西側は土塀が廻っている。

このように、本住宅は、これら建物、土塀によって屋敷全体が囲われており、現在の市街地にあって、往時の庄屋屋敷としての景観を残している。（図－1参照）

図－1　藤野邸位置図

庭園は、表門から玄関までの玄関庭、主屋北側の座敷庭、主屋南側の作業庭、主屋西側茶室前の茶庭と主屋中央に坪庭が作られている。

座敷庭は、四代前の当主藤野完平氏が、主屋の立て替えに伴い作庭を依頼したと考えられる回遊式庭園である。

主屋の建築年代が明治26年であることから庭園の作庭もほぼ同時期と考えられる。

筆者が平成21年大阪芸術大学教育研究補助費により調査及び保存整備に着手している。

庭園の整備については、庭を改変することなく復元整備を実施した。

調査で明らかになったのは、『築山庭造伝後編』秋里籬嶋著（江戸時代　1829年）に描かれた庭園をモデルにしていることである。また調査の過程で、座敷庭の北池側と南側では石組の手法に差異が認められ、本座敷庭の成立以前の庭を一部改変して現在の庭園として作り上げたことが明らかになった。

江戸時代から明治にかけての庭園技術の変遷を見ることができる貴重な庭園である。

庭園調査と復元内容について報告する。

1. 周辺部の環境

藤野邸周辺部は、日本最古の奈良時代後期とされる千手観音菩薩座像（国宝）を祀る葛井寺があり、西国三十三所霊

場の第五番札所で多くの巡礼者が訪れ賑わっている。

南には世界文化遺産登録を目指している古市古墳群に属する前方後円墳、岡ニサンザイ古墳（仲哀天皇陵とも呼ばれている）の緑が広がっている。

西には約1500年前、雄略天皇の時代に創設されたとされる辛國神社が、様々な歴史の物語を秘めて鬱蒼とした神社林に守られている。

藤野邸は、近鉄南大阪線藤井寺駅からこの辛國神社、葛井寺境内を抜けて南に下った5分程のところで、歴史文化の香りが濃い地域に位置している。（写真－1、2参照）

写真－1　葛井寺境内

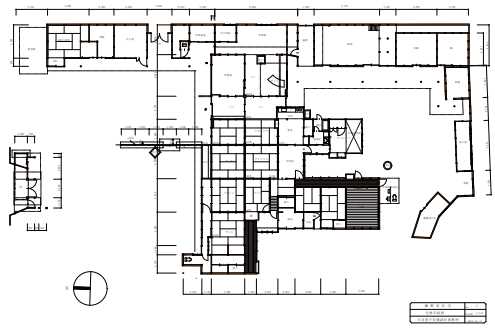
写真－2　辛國神社境内

2. 建築概要

石井智子（石井智子美建設計事務所）は、藤野家文化財登録所見で、「本住宅の建物の中で、建築年が明確なのは主屋（明治26年）と長屋門（明治7年）である。藤野家では、その他の建物は明治初年かそれ以前に建てられたと言い伝えられているが、多くの建物では、年代を特定する根拠が得られなかったため、当家の言い伝えに鑑み、主屋・納屋に準じた「明治年間」とせざるをえなかった。

藤野家住宅は、藤井寺村の中心に位置し、村の中心的役割を果たしてきた。先に述べた屋敷の外観的な特徴に加え、主屋に備えられた式台、玄関の間や、作業庭より座敷庭の面積の方がはるかに大きい点など、庄屋屋敷としての特徴を備えており、藤井寺村を代表する建物である。

このため、登録有形文化財登録基準（平成8年文部省告示第152号）の「二　造形の規範となっているもの」に該当すると考えられる。」として国登録有形文化財として申請中である。（図－2参照）



図－2　建築配置図
石井智子（石井智子美建設計事務所）作成

3. 庭園概要

1）玄関庭

藤野家住宅は、葛井寺の南門前を通る東西道路に面して表門を設けている。表門を入ると前庭があり、左手にツツジの大刈込み、右手に主庭との境にウバメガシの生垣が続き、くの字に切石延べ段が玄関まで伸びた奥行きを演出した玄関庭である。

2）主庭

庭園入口の庭門扁額には「山これ山、水また水」が掛けられ、庭園への想いが込められている。

庭門を入ると正面に見事な赤松の大木、左手に客用の玄

関があり、右手には井筒、以前には玄関脇から井筒にかけて袖垣、四つ目垣、枝折戸が設けられていた跡が残されている。

庭垣から座敷に向かって大小の飛石、短冊型敷石、濡れ縁前には見事な靴脱ぎ石が据えられており、飛石は中島、築山、池を巡り庭園を回遊できる。

中島には雪見灯篭、庭園に向かって左手に築山上に春日燈篭、築山上部には大振りの灯篭、池奥には、自然石と切石を雲合わせた寄せ燈籠が配置されている。

池水は、地形を利用して西側水路から取込み、北側の池内部に設けられた排水管から敷地東側水路に吐出しされるように作られている。

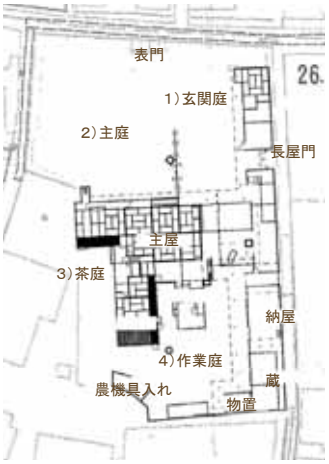
現在は西側水路からの流入水が途絶え、地下水と雨水だけで池水が賄われ溜り水となり水質は濁り、庭園景観を損なっている。

主庭全体の構成は、建物の北側に作られ、北側に高さ3m程の築山を設け建物前西側から東側に向かって築山を取り囲む様に池が掘られた築山池泉回遊式庭園である。

滝石組、池護岸石組、捨石等築山庭造伝に描かれた施設配置、石組配置が忠実に行われている。

3）茶庭

客間の南側には茶室が作られ、客間縁側から南に露地庭が作られている。縁先には橋杭をモチーフにした水鉢が配置されている。



図－3　庭園配置図

写真－3　庭門扁額「山是山水又水」

写真－4　庭門から庭現況

写真－5　建物前の飛石現況

写真－6　築山、枯れ滝現況

写真－7　築山、流れ、雪見灯籠現況

写真－8　庭門周りの現況

写真－9　池回りの現況

縁側から飛石を伝い、南端に蹲踞が配置され、躙り口では無く、貴人口から茶室に入る様に作られている。

4）作業庭

建物南側には、倉庫と鶏小屋、資材置き場の建物に鍵型に囲まれた作業庭、菜園が設けられている。

井戸、洗い場が主屋建物に接して配置されている。（図－3庭園配置図参照　写真－3、4、5、6、7、8、9参照）

4. 現況実測調査と概要

平成21年大阪芸術大学教育研究補助費に基づき、大阪芸術大学環境デザイン学科福原成雄研究室が行った。

調査では、主庭、茶庭を中心に築山、池、飛石、石組等の庭園施設の配置を実測した。

さらに、記録、図版、写真、御当主より聞取り調査を行い、庭園作庭の基となった貴重な絵図を発見する事が出来た。

1）庭園測量（2009年8月10日～11日）

1日目、前回行った庭園測量の続きを行い、茶室の実測を完成させる。

雨模様の天気で、作業が出来るか心配であったが、測量機材の搬入、測量の段取りを行った。

測量図面の清書、池の泥さらえを行なう段取りの打合せを行った。

2日目、作業の確認、建物内部の測量3名で、雨模様で平板測量が出来ないと判断して、当初から予定していた庭園

写真－10　庭園測量

写真－11　庭園測量

の池の泥さらえを4名で、通信教育の学生は、低木の剪定を行った。

池の泥さらえは、水をポンプで排水し、バケツ、一輪車、スコップ、クワを使い人力で行い、泥の厚さが40cm程度あり、1日の予定が2日になり、今回の目標の測量が完成できなかった。

しかし、50年も泥さらえをされていない庭園を少しでもよく出来ることは意義のある事で、学生にとっても貴重な経験となった。（写真－10、11参照）

2）絵図

藤野様から以前に書類を整理している時に庭園絵図を見つけ、大切に書類の間にしまってあるとお聞きして、探していただいたが見つからなかった。

図－4　絵図－1　藤野家所蔵

図－5　絵図－2　藤野家所蔵

図－6　築山庭造伝後編真の庭築山配置定ノ図

その後家中を探され、見つかったと連絡をいただき飛んで行った。

見せていただいた絵図は和紙に描かれ着彩され、夫々の石、植物に記号が付され、名前が書き込まれていた。

描いた人が誰かは分からなかったが、見た瞬間に藤野家の庭園はこの絵を基に作庭され、そして、どこかで見た絵図であると感じた。

早速、大学に戻り造園古書を探し見つけた。書名は秋里籬嶋著『築山庭造伝後編』（江戸時代　1829年）の「真の庭築山配置定ノ図」「庭體ノ基礎」だった。（図－4、5、6参照）

5. 復元工事（2009年8月12日～9月2日）

1）庭園測量・池浚渫工事

池の泥さらえが当初の予想を超えて泥が堆積しており大規模な浚渫工事になった。2日で完了出来なく、明日も一日かかりそうである。池の泥が概ね取り除かれて、池の全容が見えてきた。

・ 池の底は粘土敷で、石組護岸の根石の所々に滑りを止めるために松杭を打ち込んで仕上げている。

・ 池の要所に菖蒲を植える場所を松杭と板、又は平瓦を使用して作られていた。

・ 池の底に鯉溜りの深い場所が作られていなかった。

・ 排水の土管が2ヶ所有り、その下部に杭と板敷の止めがあり、何を目的に作られているのか現時点では判断出来なかった。

残りの泥を取り、石組護岸の土が抜けた箇所に粘土を突き入れて仕上げを行う。（写真－12、13、14参照）

2）庭園測量・浚渫工事（2009年8月13日）

今日で予定の日程を終了するが、庭園を復元するためには、かなりの時間がかかりそうである。

・ 護岸石組が崩れている部分の据直しを行う。

・ 飛石の天端が水平で無い部分の据直しを行う。

・ ゴロタ敷延段の補修を行う。

写真－12　浚渫工事

写真－13　浚渫工事

写真－14　庭園測量

・ 低木、生垣の刈込み、高木樹木の剪定を行う。
・ 低木、地被の補植を行う。
・ 今回の測量を完成させ、現況を確認し、今後の方針を検討する

池の泥を取除くと護岸石組が崩れたと思われた所が洞窟石組で、陶器の焼物を利用し鯉溜りとして作られた物ではないかと考えられる施設が現れた。

北側池石組護岸が、基礎に木材を据え、その上にゴロタ石を積みあげ天端石に大振りの石をのせる工法で施工されており、明らかに建物側の基礎から大振りの石を据え、組む工法と違いが有り、作られた年代が違う事が明らかに成った。（写真－15、16、17、18、19参照）

写真－15　浚渫工事完了

写真－16　浚渫工事完了

写真－17　浚渫工事完了

写真－18　浚渫工事完了

写真－19　庭園測量

3）庭園修復工事（2009年9月2日）

池の浚渫工事を行い、その後予定していた池石護岸立ち上がりの粘土補充を行った。

4）藤野邸庭園再生プロジェクト（2009年11月26日）

環境デザイン学科学生、大学院環境建築学生有志が、夏休みに建築、庭園実測から池の浚渫、粘土による護岸補修を行った。

後期の造園演習では、庭園再生プロジェクトとして掃除から始め、草抜き、実生木の伐採、低木の剪定、生垣の刈り込み等を行った。

写真－20　お茶会当日の庭園

写真－21　藤野家茶室

写真－22　藤野家茶庭

写真－23　環境建築領域大学院生によるお茶会開催（2010年5月27日）

写真－24　環境建築領域大学院生によるお茶会開催（2010年5月27日）

庭園も絵図が見つかり、江戸時代に書かれた『築山庭造伝』を参考にして作られた事が分かった。

再生プロジェクトでは、庭園を美しくするだけで無く、実際に建築と庭園が活用出来るようにする事を目的にしている。

桜の頃に、再生プロジェクト展示会、芸大陶芸学生と共同で茶器を制作してのお茶会、同時に、陶芸学生の作品展示を

計画している。

大学院環境建築学生にも声がけをして藤野邸庭園再生プロジェクトから藤井寺活性プロジェクトを行う。（写真－20、21、22、23、24参照）

5）文化財見学（2009年12月18日）

羽曳野市の重要文化財吉村邸と登録有形文化財畑田邸を見学し、両邸ともご当主に案内して頂いた。10時30分に出発して、昼食も食べずに時間を忘れて丁寧な心のこもった説明をお聞きした。

吉村邸では、門の見事さ、門を入っての空間の間の取り方、アプローチの素朴さと斬新さに感心し、見事な茅葺き屋根、随所に工夫を凝らした作り、簡素さの美を表した母屋の作りに感動した。

さらに客間には驚かされた。一段上がった控えの間に作られた手前畳と茶席の意匠、欄間、襖絵、釘隠し等々、上座の書院の意匠も見事でしたが、もっと驚いたのは、庭に対する縁側が、畳敷きと板の間で、庭を楽しむ様に開放されていた事である。

庭は、建物と同様に落ち着いた意匠で、築山にハゼの大木、足元に小振りの灯篭、築山中腹に蘇鉄が植わり、堺との関係を感じさせていた。

上段の書院窓から眺める庭は、灯篭の配置、石橋、枯滝石組が絶妙のバランスで作られていた。派手な庭ではないが、雄大さを感じさせる庭園である。

何時ものように、庭園の実測図が有るかお聞きしたが、無いとの事で、実測をさせて欲しいとお願いした。

大変残念なのは、お家が使われていない事だ。博物館的に見るだけの家になっている事に、疑問を感じた。

畑田邸は、ご当主が大阪大学名誉教授で、お宅よりも人物に感心し、オルゴールに惹かれた。

日本の建築文化の素晴らしさと、保存活用のあり方を考えさせられた有意義な見学会に成った。

今日、参加した学生の中からこれらの貴重な文化遺産を守り、保存活用のあり方を考え、実践し活躍してくれる事を願っている。（写真－25、26、27参照）

写真－25　吉村邸庭園見学

写真－26　吉村邸庭園

写真－27　畑田邸庭園

6）藤野邸庭園維持管理

大阪芸術大学環境デザイン学科造園演習で、庭園の草抜きと落葉掃除を行った。掃除は庭園管理の基本で、掃除をしながら庭園を観察し、庭園施設、樹木の良い所は何処か、悪い所はどうすれば良くなるかを考えながら見て回り、良い

写真－28　維持管理作業

所、良く無い所を見つけ出し、どうすれば良くなるかを考えて作業を行った。

（写真－28参照）

6. おわりに

藤野邸庭園は、実測調査で、江戸時代に著された『築山庭造伝』「真の庭築山配置定ノ図」をモデルにして作られたことが分かった。江戸時代に流行した庭園の姿を実際に見られ、築山の配置、石組も見事に残されており、当時の姿を知ることの出来る貴重な庭園である。

今回の調査では、築山の下に作られた井戸がどの様な目的で作られたのか知ることができなかった。

今後は、藤野家に残る文書類の調査と、周辺町家の庭園との比較調査を行うことにより、その類似性、地域性を少しでも明らかにする必要がある。

藤野邸庭園調査、復元整備工事、維持管理は、藤野家御夫婦、藤井寺市教育委員会文化財保護課山田様の藤井寺市の歴史地域文化財である建築、庭園を大切にしたいとの思いから行われた。

参考文献

藤井寺市市史　各説編　藤井寺市史編さん委員会　平成12年3月31日発行

藤野家文化財登録所見　石井智子（石井智子美建設計事務所）平成21年4月20日